

時局放談（9・4・19）

柴田 護（昭13・文乙）

昭和一三年文乙の柴田でございます。

先般奥田東さんのお祝いの会に顔を出したら、井垣さんに逮捕されまして、何かしゃべろということになりました。何かしゃべろと云われましても、最近では中央の行政からも多少遠ざかっておりまして、あまり内容は知りません。横から見ているだけであります。見ているだけではありますけれども、何かと後輩の連中が可愛がってくれますのである程度の事情は知っております。天下の大勢を大変腹立たしく眺めながら日を送っておりますが、何でもいいから話をしろとおっしゃるので、じゃ私の腹の立つ所を全部さらけ出す、そして皆様方の共感を得たいなあ——勿論独断と偏見ではありますけれども——ということになりました。

阪神大震災が起こりまして、それからいい事が一つもない。毎日新聞紙を見ていまして、ああいい事だなあと思うことは一つもなくって、またか、という感じばかりです。最近では新聞を見

るのがいやになりました。新聞を見るのがいやになりましたが、もっと悪いのはテレビです。テレビというのは子どもに結果的には人の殺し方を教える訳です。子供は物事に対して無限の興味を持つものですから、ああいうものに教わって録なことはない。特に最近は一入っ子が多いですから、もまれていませんから、喧嘩の仕方を知らない。だからついカットなってやってしまうとということがあちこちにあります。つらつら考えてみますと、阪神・淡路大震災があって、それからまもなく地下鉄サリン事件があり、それから警察庁長官が撃たれ、警察庁長官が撃たれるというのはいかがしているのですが、あんなに嚴重な警戒をしながら撃たれたのです。而もその撃たれ方が気にいらぬ。撃たれた時におつきの人が何人もいるのにどうして一人も犯人の方に走らなかつたのか、自分の長官が撃たれたのにそれに長官の介抱に一生懸命かかっている。そして犯人を逃したのです。そんな馬鹿なことがあるか、我々は言はば警察の親戚なんです。内務省の親戚なんですけども、親戚が本当に腹が立つのです。それから今度はハイジャック事件が起つて、そして参議院議員の選挙があつた。その間色々ありました。年の後半からいわゆる住専問題があつて、そして年明けた途端に北海道のトンネルが崩れて沢山の人が死んだ。いい事は一つもない。今日に至るまでまだありませんし、昨年の年末からはペルーの人質事件が起つて今だに解決しない。もう四ヶ月たつのに一ツも解決しない。これで幸いに戦争が起りませんので我々は平和を享受しておりますが、面白くない事が多い。日々新聞を見ていまして本當に堅実な記事が非

常に少のうございまして、どうも時代は少しおかしくなってきたのではないかと感じが致します。考えてみますと明治維新から丁度五〇年たつて戦争の時代が来ました。それがすんでもうかれこれ五〇年近くたつ。時代がやっぱり変りつつあるのじやないかなあという感じがしますし、変つてもおかしくないんじゃないかという氣もするんであります。

我々は戦後帰つて来て焼け跡に立つて戦友に祖国再建を誓いました。一生懸命働いて祖国は一応経済的には建てなおつたかと思つていました。死んだらあの世にいつて戦友連中に祖国はこうなつたよと言つて喜んでもらえろと思つておりました。然し、最近はどうもそうもいかない。喜んでもらえる様な日本ではなく、おかしくなつて来たよと報告をせざるをえなくなつて来たんじゃないか。生活は其の時に比べますと豊かになりました。しかし精神的には弱くなつたやうな氣がします。困苦の精神、苦しみに勝つという精神に欠けているやうな氣がする。今、社会の中心になつておるのは終戦後の教育を受けた連中であります。この連中は物事をぶちこわす専門でありまして、新しい論理を作ろうとはしない。仕方がないから我々がと想いますが我々も新しい論理を作るのにはもう老化しすぎている。しかしこれでは日本の将来が思いやられる。そういう感じがしてしょうがない。健康も進み人間は長生きになりました。長生きになりましたけれども、老後の社会が幸せかと言いますと現状ではどうもそうでもない。私は老人ホームの理事長を二年ばかりやつております時に感じたことがあります。それは家族が老人を連れて来てそこに入

れたら家に帰ってしまう訳です。そしてそれから一回もこないのですが、死んだらわつと来る。本当に人の心の浅ましきを見せつけられました。また年寄りには頑固なんです。寝たきりの人は定時刻におむつをかえてやればそれで喜ばれるんです。ぼけた人は特定の部屋の中に入れてロックしておけば心配ないんです。どちらも大したことはない。ぼけもしないし寝たきりでもない人が、これが一番始末が悪いのです。「○○さんタバコを吸ったら駄目ですよ」と言ったら、「はい」と言うのですが、行きすぎてふり返ると又吸っているのです。私が一番怖かったのは老人ホームに火災が起きた場合にはどうするかが一番怖かったです。私はもういいかげんに老人ホームの理事長を勸弁してもらえないかと、いつも考えていました。一期やりまして大変だなあと思いました。

しかしああいう生活がいいかと言いますと疑問があると思います。つまり年寄と年寄ばかりを集めて管理するということはいいかもしれないけれども、年寄が年寄と毎日顔を合せてみたって余りいいことはない。老化が進むだけなんです。僕は老人ホームの隣に幼稚園を作れと、幼稚園で小さい子供さんと元気な年寄を遊ばせておくと丁度うまく行く。お年寄もだんだん精神状態がよくなってくるし、子供さんの方はお年寄からいろんな知恵を授かる。両方いいじゃないか、老人ホームを作れば隣に幼稚園を作れと言うのですが、どうもそういうわけにはいかず、老人ホームばかりかたまって出来る。東京の青梅の近所に行きますといっぱい老人ホームがあります。そ

うして子供が親を老人ホームに入れて遺産配分のときまで、親を老人ホームに預ける訳です。僕はそのやり方も気に入らないのです。老人ホームを作って年寄をかためておくという事もおかしいのですが、しかしそこへ自分の親を入れて知らん顔をしていて死ぬまでまっとうしているというのもどうも気に入らない。これを何とかしなくてはいかんと思うのです。僕が思いますのは老人ホームの隣りに幼稚園を置いて、そして老人を若がえらせる。本当は老いさらばえる前に、皆様のように社会に何らかの貢献が出来る様な姿でもって逐次老いていく、つまり精神と肉体のバランスがバランスを取りながら自然に老いて行くというのが理想であって、どっちかが衰えが激しくなっていくとボケたり寝たきりになったりするのじゃないかなあと、僕は医者じゃないから分かりませんが、僕はそう思うのです。老後についてはまだまだ問題があるなあとという感じが致しますけれども、家庭も随分変わったと思います。

今、夫婦別性論というのがありますが、私に言わせればどうかしているなあとという感じがするんです。家庭をむりに破壊する事はないのであって、別性にした人はいはしたらい。強制することはない。だから別性にしたくないなあという人はしたらいという程度ならわかるんですが、ああいうことをあたかも正論であるかのように論ぜられる所が私はおかしいという感じがするんです。それをまた新聞が喜び勇んで片棒を担ぐというのがなお判らない。私に言わせればマスコミ亡国論です。特にテレビはいかん。テレビが先づ自制をしてもらわないと困る。これが自制をしな

かつたら世の中を苦しめて妙なものにしてしまう。本当はマスコミ自身に強い自制を求めなければいけないのに関係者はマスコミを利用する事はするけれども、自制を求めるといふ事は、口では言うけれども実際にはやらない。それが政治行政の現状である。そんな政治の現状に深いいきどおりを感じるのであります。

話は一寸戻りますが、阪神大震災の時に、死者が五千人余りですんだ、それは起った時間が非常に早かったからであります。時間が早かったから逆に一階に寝ていたのが上からつぶされたという格好で、お年寄には気の毒であつたのですが、しかし六時前に起つたといふ事は、新幹線が動いていない。新幹線が動いていないから良かった。新幹線が動き出していて列車がひっくりかえつたら大変な事になつた。丁度私どもの若い時に洞爺丸事件といふのがありまして連絡船が一隻ひっくりかえつて大惨事になりました。洞爺丸事件と匹敵する様な事故になつて、五千人位の死者ではすまなかつたと思ひます。あの時、しかし私はあれは関西人に対する一つの天の警告だつたといふように思ふのです。大体関西の人は地震に対して呑気すぎるのです。私は阪神高速道路公団の理事長を二三年やりましたが、行つてすぐ言いましたのが、地震の時の避難路はどうなつてゐるのかと聞いたのです。そうしたら大阪に地震なんか起こりませんよといふ。然し南海大地震があつたじゃないかといふと、あれも大した事はなかつた。大阪は大丈夫だといふのです。しかし奥丹後もあつたことだしとにかく作れと、今回の地震に役に立つたかどうかは知らないが、

避難路を五〇〇メートルおき位に作らせたのです。私はその時に関西の人々は地震に対する経験が過去においてないからあまりシビアに考えないのじゃないかと思うのです。

それからもう一ツは自衛隊をぼろくそに言って、自衛隊に対する関西人との信頼関係があまりよくない。逆に自衛隊の方も何言ってるのだとなかなかうまくいかない。そこで地元の混乱もあってなかなか自衛隊の出勤も遅れたという問題があり、いろんな問題があった。それから国の対応の仕方もはなはだまづくって内閣が情勢の詳細をつかんだのは午後になってからです。従って対策も非常に遅かった。而も対策についても補助金行政中心の対策でありますのでなかなかおもしろくない仕事が出来なかつたのであります。各省中心のこまぎれの対策の連続であつて、非常に出来が悪かつたと私は思いますが、あの結果各地方公共団体において災害対策を真面目に考えるようになった。例えば東京都庁では一五分間に必要な職員を全部集めることができるような態勢をとっている。あの時兵庫県庁ではあの震災の時に集まつた職員はごく少なく、それで知事はなかなかうまく指揮が出来なかつたということがあり、結果としてはどの地方団体もああいう非常事態の場合にはどういうように人を集めて、どういうようにやるかという訓練が具体的に研究されている。こういう事を促した事は結果論であります。非常に良かったという感じがします。其の後伊豆地方で、微震であります。最近非常に地震が多いのですが、これも又、震災があるということが大きく報道されるから（テレビカメラを通じて報道されるから、なおなんで

すが)たちまち困るのはお客さんがパタツと止ってしまふ。温泉地ですからお客さんが止ってしまふとアウトになってしまう。これは良しあしで、放送の仕方をやっぱり考えてもらわないといかんなあという感じがします。

次にオーム真理教の事件ですがあれはあれでしょうがないんですが、あの事件について非常に感じましたことは、あれだけの建物がああ辺地に出来ていたということは、誰れも知らなかったのですね。いろんなビルがああいう所に突然出来れば地元の地方公共団体はおかしいぞという事を考えるべきです。地元も警察もそうでありますが、地方団体そのものが、あれは一体何だと感じない。感じたかも知れませんが、処置をとらなかつた。僕はその対応のまずさを非常に感じるのであります。一体何をしておつたのかとそんな感じがするんです。それが一つです。もう一つはいよいよ捕って裁判になった。いま裁判が始まっております。裁判のいちいち詳細が出ていますがこれは普通の裁判と同じでこれでもいいのかなあという感じがします。あれは一種の気違いですからね。そんなものに普通並の時日と費用をかけるのは税金の無駄使いじゃありませんか。僕はあの裁判を一般人の裁判と同じ様な手続きでやる事に非常に不合理を感じる。まあもつと早く決めてしまつてもいいじゃないか、裁判手続の特例を作つたらいいじゃないかと、そういう感じがするんであつて、今までと同じような手続きで、普通の事件と同じ様な手続きでもつて裁判をする事について異議を提出したいとそう思うんであります。

次に毎日新聞を見ていると、やれ官官接待や、カラ出張やらという事が報じられまして、地方公共団体の腐敗ぶりが新聞紙上で報道されています。地方公共団体だけではありません。国の官僚についても汚職事件が続発している。大蔵、厚生、運輸・通産等の各省に汚職が発生しています。日本は役人の天国であつたかもしれません。それは政治がしゃんとしないから役人が代つてやるという事で役人に気負いがあつたかもしれませんが、いつの間にかそれがルーズになって実業家からの誘惑に負けたのだと思います。そもそも基本的に、やはりそういう物事に対する基本的な考え方、心構えがまひして来たんじゃないか、問題があるのはむしろその点じゃないだろうかと思ひます。国も地方も公務員の心構えについて一からやりなおさなくてはいかんという感じがします。つまり私も経験がありますが、例えば県の商工関係の仕事をしていますと、どうしても業界の大会なんかに行って挨拶をしなければならん。然し大会の挨拶はいいけれども、二次会には行ってはいけません。そこで切つて帰る。二次会に行くとなつて三次会とずるずると行つてしまふ。そこでけじめがなくなつてしまふので、けじめをつけるという事の訓練を国家公務員、地方公務員を通じて基本的にやりなおさねばならないなあという感じがするんです。

次に今日までいろんな事件がありましたけれども、その間で地方分権の推進という問題があつて、国の仕事を県や市町村におろしてみじかな仕事は地方公共団体にやらせて、そして国は防衛

とか外交とかもつと国全体を考える基本的な問題だけに集中する。そのために分権を推進するんだということ、分権推進委員会を作って研究しておる訳です。これは思想は悪くない。分権問題の基本は身近なことは国から地方へおろして、国はもっと基本的な事を一生懸命考えるということです。その思想はいいんですよ。しかしながら今日の社会は車社会に変わつてゐる訳ですよ、歩く住民生活から車に乗つて、四ツ足ののつかつて歩く社会に変わつてゐるのです。そういう状態のもとにおける分権であればやがて市町村行政の基本が変わつてくる。特に住民の生活が変わりだんだん同質化してきてゐる。日本という国は終戦後非常に同質化して上下の差がなくなつてきてゐる。それでしかも自動車に乗つて生活するということになりますと、やっぱり市町村の規模のあり方を少し考えなおさなければいけない。県のあり方も考えなければいけない。僕は分権を本当に推選しようと思えば順番がありますから一ぺんに出来ませんが、地方団体を府県市町村の二段階制をとるならば、やはり市町村合併と、府県の統合を考えなければいけない。そこまでやらなければ本当の分権制度は出来ませんよと、私は思うのです。尤も老人問題などは狭域の団体でやらなければならぬので、市町村の場合は広域を考えた合併と狭域のコミュニティをどう育てるかという問題があります。まあ若ければ自分でやつたであらうと思ひますがもう年ですから。尤もそこまでやるのはなかなか難しい問題、例えば選挙区問題があり、結局国会議員の選挙区問題に触れることになりましたから楽ではありません、国会議員の選挙区は日本が二院制をとる

のならば、やっぱり衆議院は小選挙区中心で、参議院は比例代表中心で、定数をもっと減らして、構成すればよいと思います。もっとも一ぺんに減らすことは無理だろうから、衆議院議員の選挙方法については、比例代表部分は二〇〇ありますね。これを次の選挙で一五〇にする。その次は一〇〇にすると、比例代表から切っていけばいい。そうすれば小選挙区中心になるだろう。参議院の方はむしろ比例代表を中心にして行く。そういう事を経過措置として書き込むのならよく分る。然し現実はそれすらやらない。それに非常に失望憤懣ふんまを感じるのであります。しかし小選挙区制を考えますと、これが日本の国に果して合うのかなあと最近若干疑問を持つ。つまり一対一で一つの座を争って、片方をやっつけて、片方が勝つという所謂勝者の論理は日本人の性格にあるのかなあとという疑問を感じる。むしろ中選挙区の方がいいんじゃないかなあとという疑問を感じるのであります。しかし今の比例代表制度を衆議院議員の選挙からやめちゃうというのならかの意味での前進処置をとってもらいたいと思います。そうすればはじめて参議院の比例代表制が生きてくるんであります。その所がどうも気に入りません。それから地方選挙、特に首長の選挙、これは投票率二〇%ぐらいで、知事や市町村長になって、住民の信頼を得たと言えるかどうか、僕は投票率が半分にも達しない選挙は無効だ、首長の選挙については無効にしたらどうか思うのです。そして、再び選挙して又住民が相手にしない低投票率なら少しおもしろい措置を取らなければ日本の自治は育たない。そういう感じがするんです。暴論かもしれませんが、そういう論

理があつてもおかしくない。そういう感じをしみじみと持つのであります。

それから政治を見ていますと、まあなかなか政党が育っていない。育つてないと言えば語弊がありますけれども、びしつとまとまっていけない。だから過半数をとれない。政治が安定しない理由は過半数を制する政党がないことなんです。これは過半数を制する政党があつて、野党があつて、野党が対案を出して、そして選挙になったらひっくりかえる。そういうやつぱり政党の交代がなければ政治は進歩しない。まあそれが基本だと思つておりますが、その所がどうもはつきりしないものですから、政治に罪をきせて行政が知らん顔をしているという悪影響も実はある。最近なんでも政治が優先しようとして役人を叩く、新聞がそれに便乗して役人をやつつけようとする。まあどつちもどつちなんですけども、結局今の官官接待だ汚職問題だというものをひっきりめまして、役人の世界に誇りというものがなくなつた。誇りがありませんから委縮します。そして逆に、委縮しますと役人に積極性がなくなる訳です。そんな国はなかなかのびませんよ。そういう意味で私は行政の現状にも政治の現状にも非常な不満を感じるのであります。

橋本総理の年頭の演説を見ますと、何項目か改革を論じておられる。おっしゃっている事はずともなんですけれども、しかし具体論は一つもない。全部抽象論でありまして、結構な話なんです。どうも抽象論で満足出来ない。特に経済構造問題について、構造改革という事をおっしゃっておりますけれども、一体どういう具合に改造したらいいのか、望ましい姿を示してもらい

たいと思います。何の資源もない日本がこの先、どうすればよいのか具体的に話して欲しいと思います。委員会を作って報告をしても、折角報告をいただきながら棚上げしちゃってるものが少なくない。確かにこのままでは東京の金融市場はニューヨークやロンドンに比べて駄目になってしまふ。だからビックバーンという事が盛んに言われるんですけども、銀行、証券、保険の改革という事には口ではいいやすいけどなかなか實際難しい。しかしなんらかの事をやってもらわなくては話にならないという感じがするんであります。じゃどうすればいいのかと僕に言はれても僕は専門家じゃありませんから分りませんが、しかし具体的に国民にこの方向だという事を言ってもらわねばいかんだろうと思うのです。

それから行政改革の問題、これも役所を減らすことが出来るのかという問題ですけれども今役人界は政治と新聞の役人たたくでいま委縮しきっている。私は委縮する事を非常に心配しています。行政改革は必要な事は必要なんです。確かに必要なんです。然し考えてみれば行政改革の精神は何かと言えば私に言わすれば魄かより始めよと言うことである。要するに国会から改革をしろ。国会の改革がさげばれて久しいじゃないか、しかし国会の改革はひとつも行なわれていない。思い切つてやったらどうだ。そこから改革が始まるのだと思います。人によっては国会議員の總数を半分にしたらどうだ。その代り月給は倍にする。一つの案ですね、役人も数を半分にする。そして月給を倍にする。そういう手荒い事をやらねば駄目じゃないか、その手荒い事をやる為には

やっぱり絶対多数の与党がいるのであります。野党と共闘というのがうまくいくか、私はいかんと思いますが中途半端な妥協になるからなかなか出来ない。行政改革も各省の数を減らすと言うんですけども、これは具体问题になれば利権が伴いますから、各省が各先生の所へ泣つく、今度は党の中でもめだす。なかなか話がつかない。と、いう事になってしまふのでありまして、行政改革の問題も政治改革の問題も結論は、労働問題だと思ふ。労働問題に対する対策がはっきりせずになかなか強行することは難しいなという感じがするんですが、現在は何もかも中途半端でなかなかおもしろくない。毎日／＼新聞記事を見てみると腹の立つ事ばかり、結構な事が一ツもありません。で、非常に情けない感じがするんであります。

特に非常に痛切に感じる事は安心出来る国民生活を確保するという事をおっしゃっておりますが、安心出来るという生活は治安の問題であります。治安の問題の責任者は警察であります。又民主的な司法制度が、これが裏から支えて行くんでありますが、やっぱり基本に各人が自分の事は自分で守るといふ精神をうえ付けねばなりません。お上にすべ^かての事をおまかせしてということではいかんのであって、自分の事は自分で守るといふ精神を国民にしっかり植え付けなければいけないということを痛切に感じるのであります。余談ですが外国旅行をしますと、ポストンバックを横に置くのは日本人だけなんです。外国人はみんな足の間にはさんで紐を足にくくりつけているんですよ、横に置くというのは取って行って下さいと言うのと同じことです。それでや

られるのです。だから自分の事は自分で守るといふ事は徹底していません。今まで日本の国内では治安が行きとどいていてそういう事を心配する事はなかったが、最近では外国人が多数入ってきて、彼等は言葉が不自由ですから、うまく意志が通じない。だから思う様に生活が出来ない。金がなくなる。どうせならやっちなまえと強盗をはたらくといふ事になりまして、だんだんと住民が身の危険を感じる様になる。夜駅前でタクシーを待っている女の子がたくさんいて、ぜいたくになつたなと思いますが、私が住んでいる住宅街は夜になると人通りが殆どない。女、子供は一人で歩かすのは危ない。そんな所で従来通りの生活をしておる事は出来るかといふと疑問になつてくる。どうしてもタクシーを使う事になるといふ様な事になりまして、私は治安の維持について国民全体が考えなおさなければいけないという感じがしてしょうがない。やっばりアメリカが来てつづいて行つたんですけれども、日本の交番の制度は昔は良かった。今も交番は残っていますが、昔は何町には何人家族の誰が住んでいるか住民の事が全部交番が知っていました。この頃交番に行つて聞いても分りません。酒屋かタバコ屋に行つて聞いた方が早い。昔の交番は全部しつていた。だからその制度が良かったと思ひますが、どういふ訳かしれませんが進駐軍につぶされたのです。大分復活してきましたがなかなかそこ迄もどらない。

いろいろ申し上げましたが私は今の日本の現状を見ておりまして、とりあえず考えなければならぬのは、やっばり少子、高齢化対策をどうするかといふ問題が当面非常に大切な事だと思ふ

のです。医療保健法の改正問題、介護保険法制度の問題も当面はこれに全力をつくして、なお片方で財政再建もやらねばならない、歳出を徹底して合理化する問題もしなければいかん。と私は思うんであります。問題は寿命が延びてくる訳ですからその年金・医療費をすべて若い世代におんぶすることは酷なんであります。老人もある程度医療費を持たなくてははいけません。年金も少し頭うちをしていかねばいかんと思うのであります。老人医療費の問題・老人年金の問題、というのはこれからどうすればよいのか、やっぱり我々としては今の制度を、頭うちしたり少しは減らしながら若い世代にかぶせる分を少しづつ軽くしてあげるといふ事をやっつけていかなければしょうがない。それから働ける人間はもっと働いてもらおう。就労構造を変えて、六〇年定年と言わずにもう少し延ばす。そして若い労働力の不足というものをある程度老人が、年寄がカバーする。今頃六〇才や七〇才は老人じゃありません。老人じゃないという考え方に徹するべきであります。そうしなくては日本の国はやっていけない。そう考えますともう方向がきまつてるじゃないか、方向はやっぱりある程度若い世代に対してこれから増えて行くであろう負担を軽くしてあげる。そういう配慮があつて年金も医療保険や介護保険の問題もやればいいと思います。介護保険という問題は、厚生省は、一括して全国一律にやろうとしますけど、僕は一律にやるべきものではないのではないかと思ひます。これは各市町村で事情が違ふんです、違ふものを急に一つの制度で無理にまとめようというのは制度としても充分じゃない。私はやっぱり、国会で法案の中身をよく見

当してもらいたいと思います。Aの市町村とBの市町村は介護保険の組織や内容が多少違っていいんですよ、基本は同じであつても形態としては多少変動してもいいと思う。介護保険は全部一律の制度でやるという事は、弊害こそあるが利点はあまりない。むしろ介護者が団結したらえらい事になる。つまり第三の教員組合みたいなもの、それがちゃんとしていけばいいがんだ時には困る。また介護は相手が年寄りでありますから年寄に対するサービスの内容は各市町村別に変つてもおかしくない。もう少し弾力を持つて考えるべきだと思ふんです。その所どうも今の現行制度は、政治も行政もどうもはつきりしてないのじゃないかという感じがしております。

それから思いますことはどうも日本の現状を見ていてだんだん亜細亜の各国がおいついてきているものですよ。つぼどしゃんとせんといかんですけれども、どうもしゃんとする積極性が最近欠けてきたような感じがする。先進国においておいこせの時代はみなやれと言えば大体一生懸命やつてきた。一ぺん追い付いてから今度は落ちてきて、一時して、再びたてなおすという事は大変な難事、そういう難事を今の若い世代に託す事が出来るかという疑問と心配を持つんです。今の若い人にはあんまり期待したらいけないのかしれません。が期待しなければならぬ。然しどうも心配でしょうがない。特に子供の少ない事、僕ら若い時の子供の時代と違って、一人で勉強／＼で詰め込まれて教育されているから遊ぶ時間がない。子供は遊ぶのが本来本職なんです。それを遊ばさず机にしばりつけて勉強さすもんだから、形はそうだが頭の中あつちの方に行

っている。結果論としておかしくなるのです。今の子供は昔の子供と違って、子供さん自身で一種の心身症にかかっている者が非常に多い。それは子供の本性にそった訓練をしてないからです。「このがき」と叱られて当り前なんです。うちのがきはいいがきだとほめられる子はろくな子じゃないということが言われますが、そうかもしれませぬ。どうも子供の本性を無視する様なことをやっているような気がするのであります。

かれこれ考えてみますとどうも我々は戦友に誓って帰って来てある程度やったんですけど、どうも戦友に、みろ出来たじゃないかという報告が出来ないじゃないかという気がする。こう考えて、非常に遺憾に感じ、これではいかんなあと思えますが、それは我々が結局天に唾するもので責は我々自身がおわなければならぬのです。戦争から帰ってきた者が一生懸命働いて作ったけれども作り方がまずかったという結果が現在の五十代の以下の若い世代に表われてきているのではないか、社会に表われてきているのではないかという感じがするのであります。どうも私達が悪かったのではないかという自省の念にかられるのであります。それを更に煽り立てるやつがいる。それは新聞テレビであります。マスコミが本当の任務を果たしていない。任務を果たせという事をマスコミに言ってくれる人がない。言うべき者が言わない。ますますのさばらしてしまふという事になるのではないでしょうか。僕はTVのドラマの報道をみていて特に犯罪に関連するドラマをみていて、言はずきかもしれませぬが人間の殺し方を教えていると、そういう感じが

してしようがない。特にテレビであります。テレビについては特に注意をして視聴者への影響を大分考えてもらいたいと思います。今のままでは心配であります。

当面は歳出の削減と財政の立てなおしと、高齢少子化対策につきるんですが、長い目で見た時はどうか、長い目で見た時は二ツの問題があります。一ツは教育問題であります。教育問題は社会の基本の一つであります。それは二〇年たなければ成果が出てこない。教育問題の今後どうするかという事を国民は長い目で一生懸命考えるべきです。学生や学校も大事ですが、教育の基本は家庭です。家庭がちゃんとしてないといいい子が出来ない。家庭が隣りは何をする人ぞでもって自分のことだけ考えているようでは困るのです。辛抱協助の精神が欠けてる限りまともな教育は出来ません。家庭はそれを反省するべきではないでしょうか。家庭の再建。その次に大事な事は教師であります。いい先生を作る。今のような、でもしか先生じゃなくなって、本当に聖職に生きる先生を作る。これが一番大事、これはやっぱり教師の育成機関を再編成すべきではないかと私は考えます。もう一ツ大事な事は、若い人の結婚感であります。結婚感を正しく考えなおしてほしい。正しく考えなおすように世論が指導してもらいたいというように強く思うのであります。戦後私たちは日本の女子教育を間違つて日本女性のいい処まで潰してしまつた。私は今のままでほっておけば日本の人口はあつという間に五千万人になってしまつた。半分になつてしまつという事は男性、女性も合せて若い人達に結婚感というものを真剣に考えるような風習を考えてもらい

たい。そして一人だと言わずに少くとも三人ぐらい子供を作れというぐらいの事は言はなくては
いけないのであって、僕は二人しか作らなかつたけれども私自身が反省している。やはり二人は
少い、三人ぐらいがいいでしょう。世界に各国があるが最後は人口の数であつて、人口が一億
の中国にはかなわないが、やっぱり三人作れば一人ぐらいやられてもともとだという感じがす
るんであります。そういう事で行くと人口はピラミッド型になる。今のままでつば型になる
ので日本は減びるだけだと、私はそういう意味で、教育の問題と若者に対して結婚というものを
考えなおして頂きたいとお願ひしたいなあと思つてあります。この先何年かかるかしりません
が、この一ツの変革期をうまく乗りきる為には、そういう基本的なことに頭を置きながら家庭を
再建しながら当面の問題をかたずけて行くという事じゃないか、それでどうやら、死んだら戦友
の前に大きな顔をして出られるのじゃないか、それもしなければなかなか出れない。私はやつぱ
り自らの考えをこめまして深く自省をしておるんであります。

この間、或る元外交官の話を聞きますと、日本人は愛される。つまり特殊な価値感を持つてい
て、黒か白に徹底するのが得意じゃない。それで常に妥協を求める性格があつて、その為非常に非
に国連では愛される。日本人はひっぱりだこになる。しかし尊敬されているかと言えば尊敬はさ
れていない。日本人が世界に入つてこれから世界平和の為に活躍して行く為には、そこを踏み切
らなくてはいかんという話を聞きました。僕は外交官のいい訳じゃないかと冷やかしたのですが、

どうもそういう気もせんでもない。根本に防衛に対する考えがはっきりしない。やっぱり自分の国は自分で守り、自分の身は自分で守るといふ觀念がもつと声を大きくしてあつてもおかしくない。大体私は憲法を変えたつていつこうにかまわない、あれは大体アメリカが押しつけた憲法だ、日本国民が書いた憲法でもない。日本が憲法草案を書いて持つて行つたところむこうが押しつけた。それが今の憲法です。改正する必要があれば改正したらいいんだという感じを私は持つています。それがいつのまにやら昔から今の憲法がづーとあつたみたいなことを言いますが、とんでもない話で、これは進駐軍が書いてきた。だから無理して九条の解釈があつちむいたりこつちむいたりしている。まったく文言解釈のあけくれに日を送っている。平和だなあという感じがしている。戦争中の事を考えれば我々は命を守るのに精一杯で、そういう論議をしている暇はなかつた訳です。今はそういう暇が出来たのだから結構でありますがそれではすまないということでもあります。ともかく現状は私どもは決して満足する状態ではない。特にこれからの下り坂になつた局面をひっくり返して、又元の栄光を取り戻す。いうならば日をまた登らす為にはこれからの努力は大変であります。我々はしかし、その努力のとっかかりがみえて来るまでは生きて頑張らなければいかん。目を皿のようにして推移を見守っているぞという感じがしております。時間が参りましたので、あれこれつたないお話を申し上げまして恐縮でしたがこれで終ります。

御静聴有難うございました。

(財)地方財務協会会長・元自治省事務次官)